

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	アライドアーキテクト株式会社
【英訳名】	Allied Architects, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 中村 壮秀
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号ウノサワ東急ビル4階
【電話番号】	03-6408-2791
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 大野 聡子
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号ウノサワ東急ビル4階
【電話番号】	03-6408-2791
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 大野 聡子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2020年1月1日 至2020年9月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
売上高 (千円)	3,045,409	2,922,568	4,087,447
経常利益又は経常損失 () (千円)	130,570	84,405	192,723
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	157,598	129,590	281,476
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	107,333	161,221	190,251
純資産額 (千円)	1,284,121	1,695,243	1,201,348
総資産額 (千円)	2,666,814	3,121,897	2,611,219
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失 (円)	11.24	9.24	20.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	9.23	-
自己資本比率 (%)	47.6	53.2	45.5

回次	第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	5.62	3.52

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第15期第3四半期連結累計期間及び第15期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であったVstar Japan株式会社の株式を追加取得し連結子会社化したことに伴い、同社を持分法適用関連会社から除外し、連結の範囲に含めております。

また、当第2四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であった株式会社Cake.jp(旧社名:株式会社FLASHPARK)の株式を一部売却したことに伴い、同社を持分法適用関連会社から除外いたしました。

さらに、当第3四半期連結会計期間において、非連結子会社であったReFUEL4 Inc.の重要性が増したため、同社を連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)業績の状況

新型コロナウイルスにより大きく事業環境が変化中、日本のみならず世界全体としてDX（デジタルトランスフォーメーション）推進の波が押し寄せ、本格的なデジタル・ソーシャル時代が到来しようとしています。

このような背景のもと、当社グループでは、企業のマーケティングにおけるDXやSNSによる発信を支援するため、マーケティング・ソフトウェアの提供やSNSマーケティング支援を中心とした事業を展開しております。

当社グループにおける新型コロナウイルスの影響につきましては、特に第2四半期連結会計期間（4-6月）において、一部の事業で顧客からの発注の減少・延期等が発生しておりましたが、第3四半期連結会計期間（7-9月）では国内海外の経済活動再開に伴い、その影響は概ね解消されました。なお、新型コロナウイルスによる影響は当連結会計年度中は一部の事業においては継続するものと予想しております。今後につきましては、経済情勢を注視し、業績に変動が見込まれる場合には速やかに開示いたします。

当社の報告セグメントは、ソーシャルメディアマーケティング支援の単一セグメントとしておりますが、事業区分ごとの概況は以下の通りであります。

なお、当社グループでは、経営管理指標として「付加価値売上」（注）を設定しており、売上高と共に収益性を図る指標として管理しております。

（注）付加価値売上 = （当社単体：売上高 - 直接原価） + （連結子会社：売上総利益）

マーケティング・ソフトウェア事業

自社開発の月額課金制SaaS型サービスやSaaSで補いきれないマーケティング施策の提供等によって、マーケティングのDX推進に貢献し、マーケティング人材の質的・量的な不足を補い、少ない広告予算でもより効果的な成果を上げるための支援を行っております。

当第3四半期連結会計期間（7-9月）におきましては、SaaS型サービスについては、ダイレクトマーケティングの成果向上を実現するソフトウェア『Letro（レトロ）』や、Twitterによるプロモーションを効率的に行うためのツール『echoes（エコーズ）』を中心に案件数が順調に増加しました。また、5月にリリースした動画作成ツール『LetroStudio（レトロスタジオ）』も順調に契約数を伸ばしております。一方、SaaS以外のスポット売上は、新型コロナウイルスの影響でキャンペーン案件等が一時的に減少していたものの、緊急事態宣言解除後は需要が回復いたしました。

また、当第3四半期連結累計期間におけるマーケティング・ソフトウェア事業全体でも、売上高及び付加価値売上は前年同期比で増加いたしました。

マーケティング・ソリューション事業

昨今ではSNSを通じた「ファン」の存在をマーケティングに活用し、ビジネスの成長を目指す概念が浸透しつつあります。「SNS」や「ファン」をキーワードにマーケティング活動の企画立案から施策の実行までを包括的に支援するSNSマーケティング支援、ファン育成を中心とした事業を行っております。

当第3四半期連結会計期間（7-9月）におきましては、新型コロナウイルスによって予算が縮小傾向にあったSNSマーケティングの需要が回復し、長期的なマーケティング戦略の立案から運用まで一貫通した支援を提案することで顧客あたりの受注額の増加に取り組んだ結果、売上高及び付加価値売上は前年同期比で増加いたしました。

しかしながら、当第3四半期連結累計期間におけるマーケティング・ソリューション事業全体では、上期において一部顧客の広告出稿が減少したこと等の影響が挽回できず、売上高及び付加価値売上は前年同期比で減少いたしました。

クロスボーダー事業

近年急速に市場が拡大している越境ECへの出店による中国進出をしたい日本企業や、インバウンド市場において訪日外国人をターゲットに商品やサービスを提供したい企業のうち、特に化粧品や健康食品、日用品等の消費財メーカーを中心に、日本の商品に愛着のある在日中国人や中華圏で人気のある日本人インフルエンサーの発信力を活用したプロモーション等の支援を行っております。

当第3四半期連結会計期間（7-9月）におきましては、上期に引き続き新型コロナウイルス禍に伴いインバウンド需要が回復せず、それに対応するキャンペーン等の支援の減少影響を受けたこと、また中国における大規模なECセールがない季節的な要因により中国ECでのマーケティング関連の需要が伸び悩んだことにより、クロスボーダー事業全体として、売上高及び付加価値売上は前年同期比で減少いたしました。

一方、当第3四半期連結累計期間におけるクロスボーダー事業全体では、インバウンド需要に対応するキャンペーン等の支援は影響を受けたものの、上期において中国ECでのマーケティング関連の需要が好調であったことにより、売上高及び付加価値売上は前年同期比で増加いたしました。

クリエイティブ・プラットフォーム事業

シンガポール子会社であるCreadits Pte. Ltd.（以下、「Creadits」という。）は、欧米を中心としたグローバル市場において、デジタル広告制作を低コストで効率的に行いたい企業と、スキルの高い世界中のクリエイターをマッチングする、広告クリエイティブ制作に特化したグローバルプラットフォーム「CREADITS®」を提供しております。

当第3四半期連結会計期間（7-9月）におきましては、ゲーム等の巣籠り需要関連の顧客からの受注がさらに拡大しており、また単価の高い3Dのクリエイティブ制作の受注が増加し、売上高及び付加価値売上は前年同期比で大きく伸長、9月には単月黒字化を達成いたしました。

また、当第3四半期連結累計期間におきましては、特に上期において新型コロナウイルス禍による欧米各国でのロックダウンによる影響を受けたものの、ゲーム業界等からの3Dクリエイティブ制作の受注増加等により、売上高及び付加価値売上は前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,922,568千円（前年同期比4.0%減）となりましたが、収益性の高い自社サービスに注力したことにより、付加価値売上は1,697,152千円（前年同期比5.9%増）、売上総利益は1,478,355千円（前年同期比8.0%増）となりました。

また、営業利益は、売上総利益の増加等に伴い131,732千円（前年同期は営業損失106,282千円）となりましたが、そのうちCreaditsの営業損失が109,955千円（前年同期のCreaditsの営業損失は247,365千円）と赤字幅を縮小したことで大幅な利益改善を果たしました。経常利益は、為替差損を計上したこと等により84,405千円（前年同期は経常損失130,570千円）となり、また親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益を計上したこと等により129,590千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失157,598千円）となりました。

売上高、付加価値売上高、売上総利益及び営業利益の状況を表で示すと、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	前年同期比
売上高	3,045,409千円	2,922,568千円	122,840千円
付加価値売上	1,602,976	1,697,152	94,175
売上総利益	1,369,320	1,478,355	109,035
営業利益（は営業損失）	106,282	131,732	238,015

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて510,678千円増加し、3,121,897千円となりました。これは主に、現金及び預金が、当社における新規借入及びCreaditsにおける第三者割当増資等により596,018千円増加した一方で、その他流動資産が110,360千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて16,784千円増加し、1,426,654千円となりました。これは主に、買掛金が103,367千円増加したこと及び新規借入を行ったこと等により短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が97,032千円増加した一方で、長期借入金が160,143千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて493,894千円増加し、1,695,243千円となりました。これは主に、Creaditsにおける第三者割当増資等に伴い資本剰余金が327,186千円増加したこと及び親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等により利益剰余金が116,876千円増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,800,000
計	28,800,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,054,700	14,054,700	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	14,054,700	14,054,700	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2020年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日(注)	12,000	14,054,700	702	832,689	702	804,689

(注)新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,017,200	140,172	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	14,042,700	-	-
総株主の議決権	-	140,172	-

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式 数(株)	他人名義 所有株式 数(株)	所有株式 数の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
アライドアーキテクツ株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号	23,500	-	23,500	0.17
計	-	23,500	-	23,500	0.17

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PWC京都監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	656,346	1,252,365
受取手形及び売掛金	700,332	767,923
仕掛品	3,348	2,439
その他	216,963	106,602
貸倒引当金	42,157	71,366
流動資産合計	1,534,832	2,057,964
固定資産		
有形固定資産	98,201	71,386
無形固定資産		
のれん	-	8,473
その他	123,783	158,205
無形固定資産合計	123,783	166,678
投資その他の資産		
投資有価証券	766,451	739,131
その他	98,268	97,116
貸倒引当金	10,318	10,378
投資その他の資産合計	854,400	825,869
固定資産合計	1,076,386	1,063,933
資産合計	2,611,219	3,121,897
負債の部		
流動負債		
買掛金	211,976	315,343
短期借入金	-	100,000
1年内返済予定の長期借入金	329,580	326,612
未払法人税等	17,029	58,358
その他	285,461	219,807
流動負債合計	844,046	1,020,121
固定負債		
長期借入金	561,707	401,564
繰延税金負債	4,116	4,969
固定負債合計	565,823	406,533
負債合計	1,409,870	1,426,654
純資産の部		
株主資本		
資本金	831,987	832,689
資本剰余金	816,307	1,143,493
利益剰余金	501,231	384,355
自己株式	11,915	11,915
株主資本合計	1,135,147	1,579,911
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,096	31,410
為替換算調整勘定	25,556	49,644
その他の包括利益累計額合計	52,653	81,055
新株予約権	10,598	7,742
非支配株主持分	2,950	26,534
純資産合計	1,201,348	1,695,243
負債純資産合計	2,611,219	3,121,897

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	3,045,409	2,922,568
売上原価	1,676,089	1,444,213
売上総利益	1,369,320	1,478,355
販売費及び一般管理費	1,475,602	1,346,622
営業利益又は営業損失()	106,282	131,732
営業外収益		
受取利息	36	73
受取配当金	3,376	168
補助金収入	7,468	4,602
その他	595	602
営業外収益合計	11,477	5,445
営業外費用		
支払利息	4,617	5,229
株式交付費	61	12,521
為替差損	23,883	20,132
投資事業組合運用損	1,946	1,049
持分法による投資損失	5,257	12,299
その他	-	1,540
営業外費用合計	35,764	52,773
経常利益又は経常損失()	130,570	84,405
特別利益		
新株予約権戻入益	323	2,856
投資有価証券売却益	17,238	114,703
段階取得に係る差益	-	8,721
特別利益合計	17,562	126,281
特別損失		
投資有価証券評価損	936	-
関係会社整理損	-	4,404
特別損失合計	936	4,404
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	113,944	206,282
法人税、住民税及び事業税	39,987	74,512
法人税等調整額	1,600	1,050
法人税等合計	41,588	73,462
四半期純利益又は四半期純損失()	155,533	132,819
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,065	3,229
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	157,598	129,590

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	155,533	132,819
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	28,149	4,313
為替換算調整勘定	20,050	24,088
その他の包括利益合計	48,199	28,402
四半期包括利益	107,333	161,221
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	109,398	157,992
非支配株主に係る四半期包括利益	2,065	3,229

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であったVstar Japan株式会社の株式を追加取得し連結子会社化したことに伴い、同社を持分法適用関連会社から除外し、連結の範囲に含めております。

また、当第2四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であった株式会社Cake.jp(旧社名:株式会社FLASHPARK)の株式を一部売却したことに伴い、同社を持分法適用関連会社から除外いたしました。

さらに、当第3四半期連結会計期間において、非連結子会社であったReFUEL4 Inc.の重要性が増したため、同社を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界的に経済や企業活動に大きな影響を与えており、当社グループの事業活動にも影響を及ぼしております。当社グループとしましては、このような状況は当連結会計年度中は一定期間続くものの、国内・海外における金融・財政政策の実施や各地における経済活動が再開しつつあることから、今後は緩やかに回復すると仮定して、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等にかかる会計上の見積りを行っております。

なお、このような仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であることから、上述の仮定に変化が生じた場合には、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	34,368千円	89,812千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ソーシャルメディアマーケティング支援を主な事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	11.24円	9.24円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	157,598	129,590
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	157,598	129,590
普通株式の期中平均株式数(株)	14,016,958	14,022,221
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	9.23円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	12,568
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度から重要な変動があったものの概要	-	第11回新株予約権 (普通株式)273,000株 第16回新株予約権 (普通株式)178,500株 第17回新株予約権 (普通株式)206,000株 第18回新株予約権 (普通株式)245,000株 第19回新株予約権 (普通株式)245,000株 第20回新株予約権 (普通株式)280,000株

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

アライドアーキテクツ株式会社
取締役会 御中

P w C 京都監査法人

指 定 社 員 公認会計士 若山 聡満 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 岩瀬 哲朗 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアライドアーキテクツ株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アライドアーキテクツ株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。